



茨木 智氏

オーブン カレッジ

大成功をしているイベントであることが想像できます。本日は、あることが実感できます。このような公平な日程作成の成功の1つの要因は、レギュラーシーズンの戦いも含めて、常に公平性を追求していることにあります。

先日アメリカではNFL（注1）の決勝戦であるスーパーボウルが行われました。日本でも中継をテレビ観戦された方も多かったのではないのでしょうか。満員のスタジアムとテレビ中継の世界的規模を見ると、興行的に

スポーツから考える最適化理論

成されており、レギュラーシーズンは各チームと総当たりするのではなく、13チームとの16試合を行い順位を付けます。したがって、このチームとどこで対戦するかという試合日程は、勝敗を左右するだけでなく、興行的にも大きな影響力を持っている

いばらき カムロ オペレーションズ・リサーチ、数理論計、京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了・工学博士。1965年生まれ。

科学的手法で分析、意思決定を

れ、1990年代から欧米を中心に理論と応用の両面から研究がなされてきました。日本でも、Jリーグ等に適用した成功例が報告されています。筆者もbリーグ（注2）の日程作成に携わったことがあり、経営上の様々な条件に答えた公平な日程を作ること

はたいへんな苦勞でした。さてこのORですが、1960年代は花形分野で、経済・経営系の学部で盛んに教えられ、企業の多くもORを専門とする部署を持っていたと聞きます。

もともと第2次世界大戦中の米英の軍事作戦（オペレーション）研究が発端で（このOR研究の成果により大戦に勝利したとも言われています）、その後経済・経営的に必要予測、生産と管理、待ち行列などにおける意思決定問題に数学的、統計的モデルを適用する形で利用されてきています。最適な選択・意思決定とは何であるかを定義し、満たすべき条件を定式化した数式群を、数理的手法を使って整理し、あるいは破棄し、必要なものだけを抽出して関係性を発見していきます。

（注1）NFL 全米アメリカンフットボールリーグ。OR黎明期は、実際の問題を解くには計算機技術が追い付かず、企業での発展の機会を失いましたが、近年の計算機急速な進歩が、ORの息を吹き返しています。すなわち、以前なら何日かけても終

